京 環 セ 第 6 号
平成 19 年 5 月 1 日
2007年

京大植物園を考える会
川那部浩哉　様

京エコロジーセンター
（京都市環境保全活動センター）
館 長　　高 月　　紘

平成 19 年度環境保全活動支援事業に対する
貴団体提案事業の採択決定と助成金について（決定通知）

時下，ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
このたび，貴団体から応募の「平成 19 年度環境保全活動支援事業」に関わる提案事業が助成金交付対象事業に決定しましたので，下記により通知します。

記

1　助成金内定額　100,000 円

2　留意事項
・活動は，実施期間内(平成 19 年 5 月 1 日～平成 20 年 2 月 29 日)に実施してください。
・助成要件，助成対象活動及び助成対象経費等は募集要項で再度確認ください。
・助成金対象事業の終了後、速やかに活動完了報告書（収支決算報告書含む）を提出してください。
・経費に関わる領収書は，費目ごとに収支決算報告書に添付してください。助成対象外の経費が含まれている場合は，助成金内定額を変更します。
・助成金は，活動完了報告書と収支決算報告書を精査し，請求書に基づき，指定金融機関に支払います。（郵便局不可）
・活動報告・採択団体交流会（平成 20 年 3 月 16 日予定）には出席することとします。
・同封の報告書及び請求書は，提出日まで保管してください。

京都市伏見区深草池ノ内町 13 番地
京エコロジーセンター
（担当：事業課　井上）
Tel075-641-0911 Fax075-641-0912

助成金対象活動の報告書

2007（平成19）年度　京エコロジーセンター活動支援事業

大学植物園を活用した市民向け自然観察会と「花と樹の地図」作り

2008年２月２９日　京大植物園を考える会

活動の目的

「生態植物園」として長年維持されてきた京都大学理学研究科附属植物園を活用して自然観察会を行うことにより、

1）左京区を中心とした京都市民に身近な自然に関する基礎的知識を身につけてもらうとともに、「花と樹の地図作り」を通して、参加者がより意識的に自然を観察、調査する機会をつくる。

2）自然観察や地図作りなどの体験の共有を通じ、地域住民と大学構成員の交流の場をつくる。

活動内容

1．自然観察会・・・月１回、計10回（2007年５月～2008年２月）。

2．花と樹の地図作り・・・春と秋、各一回（2007年５月17日、９月27日）。

3．植物園まつり・・・京都大学11月祭期間中（2007年11月22～25日）。

活動内容の詳細

1．自然観察会

2007 年５月から 2008 年２月の間、毎月１回・計 10 回の自然観察会を京都市左京区の京大植物園および京都大学総合博物館および吉田山で開催した。毎月テーマを設定し、京大植物園を考える会が依頼したガイド（案内役）の解説を聞きながら園内を巡った。ガイドをお願いしたのは、京大植物園をフィールドにする研究者（大学教員や大学院生）や、過去に京大植物園で研究していた卒業生や元教員が主だったが、研究者や大学関係者のみにこだわらず、自然観察指導員やシンガーにもガイドをしていただいた。また、京大植物園を考える会のメンバー（主に大学職員や大学院生から構成される）がスタッフを務め、観察会の進行の補助や、園内の道案内、参加者の質問への対応などを行った。

10 回の観察会を通して、植物や昆虫や菌類といった様々な生き物の生態や、植物園の四季折々の表情を観察することができた。観察会のテーマは決して生物学的側面だけに偏らず、８月に行った「森で語ろう」のように、演奏を聞きながら参加者に自由に語ってもらう機会も設け、京大植物園の自然は人間にとっても、居心地がよい重要な場所だということを実感した。

また、観察会は主に京大植物園内で行ったが、10 月の観察会「ミツバチのコロニーの観察」では、まず京大総合博物館のミュージアムラボでミツバチの生態について 40 分ほどの講義を受けた後、京大植物園に隣接する緑地である吉田山に移動し、神社の社殿の軒下

などに営巣するニホンミツバチのコロニーを観察した。普段の観察会では、野外で歩きながら説明を受けるが、後ろの方の参加者は説明が聞こえない場合があり、課題となっている。10 月の観察会のように、最初にじっくりと説明を受けた後で、野外に出て観察するという形態も効果的と思われた。

全観察会ののべ参加人数は３０３人だった。参加者数には多少の変動があり、春や秋の気候のよい時季には人数が多い傾向があった。また、休日に開催した 10 月と 11 月には多くの参加者を得ることができた。

各回の開催日、時間、テーマ、ガイド、参加人数を表にまとめたものを資料１として示した。観察会の様子の写真は資料２に示した。また、観察会の写真は京大植物園を考える会ホームページにも掲載されている（http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/）。観察会の案内チラシは資料３、観察会当日の配布資料は資料４として添付した。また、毎回観察会終了後に参加者に感想文を書いてもらい、ガイドにはレポートを書いてもらった。感想文とガイドレポートは資料７として添付した。当会の観察会の様子は「京都大学生協教職員情報誌」に毎月連載されている。掲載記事と掲載紙を資料８として添付した。

２．花と樹の地図作り

５月の観察会では「花と樹の地図」、９月には「花と実の地図」の作成に取り組んだ。この取り組みは、ガイドの説明を聞きながら後をついて歩くのでなく、参加者が自分たちで動き回って植物を調べる機会を作ることがねらいであった。また、スタッフと参加者が共同作業で地図を作ることで、双方向のやりとりを促進することもねらった。

当日は、最初に簡単な趣旨説明をした後で、参加者とスタッフを４班に分けた。植物園の白地図をあらかじめ４つの区域に切り離しておき、各班に一区域ずつ担当してもらった。「この白地図にはまだ何も記入されていません。植物園を歩くのが楽しくなるような地図を作ってみましょう」というガイドの西田佐知子さんの声かけのもと、地図作りに取りかかった。歩くときに目印になりそうな大木や、花（５月）や実（９月）をつけている樹や草を見つけたら、地図にシールを貼り、植物名を記入していった。花や実は、その色に近い色のシールを選んで貼った。花では「咲き始め、満開、散り始め」など、開花の状態も観察し、実では「動物にくっつくもの、動物に食べられるもの、風で飛ばされるもの」など、どのように運ばれるタイプなのかも観察した。植物名が分からない場合にはガイドやスタッフが対応するようにしたが、各班の参加者の中にも植物に詳しい人がいて、予想以上にスムースに作業を進めることができた。

40 分ほどで記入を終えて集合し、各班が記入した地図を一枚の大きなボードに貼り合わせ、植物園全体の「花と樹の地図」、「花と実の地図」が完成した。初めての試みだった５月は、担当エリアのうちの一部分しか調べることができない班もあったが、二度目の９月には参加者もスタッフも慣れてきて、園内のより広い範囲を、楽しみながら記録することができた。最後に、各班が自分たちの担当エリアの様子やみどころを紹介し合った。さらに９月は、植物園の鳥たちが木の実をどのように利用しているかを調べている大学院生が研究内容を分かりやすく説明してくれる機会があり、内容的にもより充実したものとなっ

た。５月に作成した地図は資料５、９月の地図は資料６として添付した。

３．植物園まつり

京都大学の学園祭「１１月祭」の期間中に、京大植物園が位置する京都大学北部キャンパスで行われた「北部祭典」の参加企画として「植物園まつり」を出展した。

プログラム
京大植物園まつり　11 月 22 日（木）～25 日（日）京都大学北部キャンパスにて
◇京大植物園観察会スペシャル
～昔のエピソードを聞きながら晩秋の京大植物園をいっしょに歩いてみませんか～
11 月 23 日（金）　13 時～15 時
ガイド：田端英雄さん（元・京大生態学研究センター助教授）
◇写真展「植物園の四季 Part V」：22 日(木)～25 日(日)。京都大学理学部６号館前。
◇ライヴ＆トークショー（投げ銭）『森のヌシ神に捧ぐ』
11 月 23 日（金）18 時 30 分～21 時。京都大学理学部２号館前特設ステージ
演者　・鎌田東二　　宗教哲学者にして、「神道ソングライター」
　　・AUX　必殺!! 子連れバンド

学外からも多くの見学者が訪れる１１月祭に合わせて観察会や写真展、ライヴといったイベントを開催し、京大植物園の存在を知らない人たちにも植物園に親しんでもらうことをねらった。「観察会スペシャル」では、かつて京大植物園での研究や、園内の管理・運営にあたっていた元・京大生態学研究センター助教授の田端英雄さんにガイドをお願いし、京大植物園の来歴や、園内の植物の由来など、普段はあまり聞くことのできない貴重な話を伺うことができた。普段の観察会よりも長く時間をとり、植物園の過去や将来に思いをはせながら、紅葉の美しい晩秋の植物園をじっくりと楽しみ、６７人の参加者を得ることができた。

写真展「植物園の四季 Part V」では、植物園で観察できる動植物の写真や、昔の植物園の様子が分かる写真を展示した。また、５月と９月の観察会の成果である、「京大植物園花と樹の地図」および「京大植物園花と実の地図」も展示し、地図上にある花や実を写真で確認できるようにした。

「ライヴ＆トークショー『森のヌシ神に捧ぐ』」では、北部祭典特設ステージにて、京大植物園にゆかりのある３名のシンガーソングライターによる公演およびトークショーが行われた。様々な人が京大植物園を通してつながり、そこには植物園をとりまく独自の文化が形成されていることを改めて感じることができるライヴであった。

ライヴと写真展はともに、京都大学北部キャンパスのメインストリートであるイチョウ並木沿いで行われたため、１１月祭に訪れる多くの人々の目をひきつけることができ、広く京大植物園を知ってもらう機会を作ることができた。

植物園まつりの写真は資料２に、植物園まつりの宣伝ポスターは資料３に添付した。

４．情報誌ゆくのき通信の発行

観察会のまとめや、植物園に関わる人々からの寄稿や研究論文を掲載した情報誌「ゆくのき通信」を発行した。

・ゆくのき通信第２号：2007 年５月 17 日発行。

・ゆくのき通信第３号：2007 年 12 月 25 日発行。

総括

本活動では、大学植物園を活用した自然観察会、花と樹（実）の地図づくり、植物園まつりおよび、それらの活動をまとめて掲載した情報誌ゆくのき通信の発行等を通じて、市民が身近な自然に親しみ、学習することを支援するとともに、地域住民と大学との交流を促進した。

特に、５月と９月の観察会では「花と樹（実）の地図」づくりに取り組むことで、単にガイドの説明を聞くだけにとどまらず、参加者が自ら植物を観察する機会を提供することができた。さらに、大学構成員と地域住民とが共同作業を行うことで、両者の間で一方向ではない学びあいの場が形成された。

また、「京大植物園まつり」では、観察会、写真展、ライヴと、まさに「まつり」とよぶにふさわしい多彩で充実した企画を展開し、多くの人々に植物園に親しんでもらうことができた。

本年度の観察会では、昨年度よりも参加人数がやや少ない傾向があったが、全体的に積極的な参加者が増え、参加者がレベルアップしたことが見受けられた。参加者同志の会話の中から、「これは何々の花だね」とか「何々の実が落ちているね」といった声が聞こえることが多くなってきた。また、花と樹の地図づくりの際、植物に詳しい参加者がちょうどどの班にも一人はいたことは、主催者側としてはうれしい誤算であり、地図づくりを随分助けていただいた。このように参加者の方々の能力を引き出すことで、よりよい観察会を作っていけるかもしれない。そうした可能性についても今後検討していきたいと考えている。

添付資料一覧

□資料１．表　各月の観察会の概要

□資料２．写真　活動の様子

□資料３．各回の観察会のチラシ（各月）、「京大植物園まつり」ポスター（11 月）

□資料４．観察会で配布された資料（５月、６月、９月、11 月、12 月、１月分）

□資料５．京大植物園　花と樹の地図（５月実施）

□資料６．京大植物園　花と実の地図（９月実施）

□資料７．参加者の感想とガイドのレポート（各月）

□資料８．京都大学生協職員情報誌の掲載記事

□資料９．情報誌「ゆくのき通信」２号，３号